

■（３０）記者だって「おもしろい記事」に一喜一憂！

朝日新聞に今春、まったく新しい欄が登場した。「新聞でまなぶ」のページだ。新学期から小学生の教科書に新聞を使った項目が増えたのに合わせて創刊した。先生、記者が一体となって作っていく新しい試みで、初回テーマは「おもしろい記事探そう」だ。見出しや前文、本文という記事の構成を説明し、簡単に内容を読み取る方法を紹介した。

新聞からおもしろい記事を探しているのは記者も同じ。東京で言えば、多くの記者は朝刊を少なくとも６紙、夕刊を同じく５紙読んでいる。読み比べて探すのは関心分野について他紙がどう書いているか。自分の知らなかった話や視点の話題が載っていないか。競合紙のハッとするいい記事を見つけると「負けたか」と落ち込むが、そこは新たな取材のエネルギー源にもなる。次は自分がアッと驚いてもらう記事を書いてやるとがんばる。

未明の新聞社では、刷り上がったばかりの各紙の新聞を読み比べては、喜んだり、落ち込んだりの光景が連日のように繰り返されています。みなさんの教室でも、そんな記者たちの笑顔や涙を想像しながら、いろんな新聞を読み比べてみて下さい。（山）